

古典の学習について考える

学習指導要領の改訂により、平成23年4月から小学校においても古典の学習が本格的に導入されました。小学校の教員にとって、古典の指導は未知の世界です。また、小学校での導入に伴い、中学校での指導方法も変わってくるのが予想されます。小中学校での古典学習の進め方について考えてみましょう。

Q1 学習指導要領には古典の学習がどのように位置付けられているのですか？

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B聞くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

(小)第1学年及び第2学年	(7) 昔話や神話・伝承などの本や文章の <u>読み聞かせ</u> を聞いたり、 <u>発表し合ったり</u> すること。
(小)第3学年及び第4学年	(7) 易しい文語調の短歌や俳句について、 <u>情景を思い浮かべたり</u> 、リズムを感じ取りながら <u>音読</u> や <u>暗唱</u> をしたりすること。 (4) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの <u>意味を知り</u> 、 <u>使う</u> こと。
(小)第5学年及び第6学年	(7) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、 <u>内容の大体を知り</u> 、 <u>音読</u> すること。 (4) 古典について解説した文章を読み、 <u>昔の人のものの見方や感じ方</u> を知ること。
(中)第1学年	(7) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を <u>音読</u> して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。 (4) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。
(中)第2学年	(7) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。 (4) 古典に表れた <u>ものの見方や考え方</u> に触れ、登場人物や作者の <u>思いを想像</u> すること。
(中)第3学年	(7) 歴史的背景などに注意して古典を読み、 <u>その世界に親しむ</u> こと。 (4) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する <u>簡単な文章を書く</u> こと。

(傍線引用者)



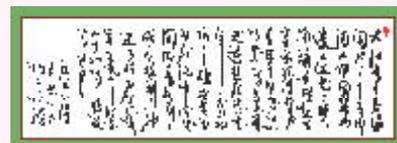
Q2 教科書ではどのような作品が取り上げられているのですか？

光村図書出版の小学校教科書（23年度版）及び中学校教科書（24年度版）では、次の教材が取り上げられています。

- (小) 第1学年：まのいいりょうし（昔話の読み聞かせ）
(小) 第2学年：いなばの白うさぎ（神話の読み聞かせ）
三まいのおふだ（昔話の読み聞かせ）
十二支のはじまり（干支の由来：巻末付録）
(小) 第3学年：ばけくらべ（昔話の読み聞かせ）
俳句三句（芭蕉、蕪村、一茶）短歌二首（友則、仲麻）
百人一首（十八首：巻末付録）
(小) 第4学年：俳句三句（一茶、蕪村、芭蕉）短歌二首（光孝天皇、赤人、蝉丸）
俳句三句（子規、虚子、汀女）短歌三首（啄木、晶子、信綱）
額に柿の木（昔話の読み聞かせ）
故事成語（蛇足、五十歩百歩）
(小) 第5学年：竹取物語（冒頭）
枕草子（第一段）
平家物語（冒頭）
論語（己の欲せざる所は～、過ちて改めざる～、学びて思はざれば～）
雪女（昔話の読み聞かせ）
徒然草（高名の木登り：巻末付録）
(小) 第6学年：柿山伏（狂言）
河鹿の屏風（昔話の読み聞かせ）
短歌を作ろう（三首：橘曙覧）
「とんぼ」の俳句を比べる（四句：芭蕉、漱石、虚子、汀女）
鳥獣戯画
風神雷神図屏風（俵屋宗達）
天地の文（福沢諭吉）
附子、神鳴、二人袴（狂言）、寿限無（落語）（いずれも巻末付録）
俳句を作ろう（六句：一茶、蛇笏ほか）
(※ほかに第3学年以上の「季節の言葉」でも俳句と短歌が掲載されています。)



- (中) 第1学年：いろは歌
竹取物語（蓬萊の玉の枝）
故事成語（矛盾）
時そば（古典落語：巻末付録）
(中) 第2学年：枕草子（第一段）
新しい短歌のために（六首：子規、晶子、茂吉、白秋、修二、万智）
短歌十二首（空穂、牧水、啄木ほか）
平家物語（冒頭、扇の的）
徒然草（仁和寺にある法師）
漢詩（春暁、絶句、黄鶴楼にて～、春望）
能（八島のあら筋）、狂言（末広がりのはら筋）（いずれも巻末付録）
(中) 第3学年：俳句の可能性（五句：龍太、子規、子郷、楸邨、山頭火）
俳句十六句（芭蕉、蕪村、一茶ほか）
古今和歌集（仮名序）
万葉集（九首）
古今和歌集（三首）
新古今和歌集（三首）
おくのほそ道（冒頭、平泉）
論語（学びて時に～、故きを～、学びて思はざれば～、剛毅木訥～）
史記（巻末付録）
(※ほかに第2学年以上の「季節のしおり」でも俳句と短歌が掲載されています。)



Q3 古典の学習では何を教えればいいのですか？

小学校の古典の指導で最も大切なのは、

「古典嫌いな子をつくらない」

ことです。詳細な現代語訳をさせたり古典文法を教え込んだりしたのでは、学習が楽しく感じられません。「難しそうに見えるけれど、古典って楽しいんだ！」という意識を持たせることこそ、古典を教える小学校教師の役割です。

そのためには次の2つが身に付けさせるべき指導事項となります。

- 1 読み聞かせを聞いたり音読や暗唱をしたりすることで、文語調の文章に慣れ親しみ、内容の大体を知ることによって古典を身近に感じさせること。(1～6学年)
- 2 現代語訳を手がかりに、昔の人のものの見方や考え方、感じ方について知り、現代の人との共通点や相違点を考えることで、昔の人の「人間としての魅力」に迫り、親しみを持つこと。(5～6学年)

中学校の古典の指導で最も大切なのは、

「古典の世界の入口まで子どもを連れて行く」

ことです。そして、小学校と同じように「古典嫌いな子どもをつくらない」ことは言うまでもありません。学校教育で学習できる古典の作品は多くはありません。学校を卒業して古典の作品を読むときの素地を作ってあげるのが中学校教師の役割です。「受験に必要なだから」ではなく、「やがて読もうと思った時に必要だから」という積極的な考え方が大切です。

そのためには次の2つが身に付けさせるべき指導事項となります。

- 1 読みの基本的なルールをある程度知り、音読や朗読を通して古典特有のリズムを味わいながら楽しむこと。
- 2 様々な古典の作品に触れ、現代文と同様、昔の人のものの見方や考え方、感じ方を考えたり、登場人物や作者の思いなどを想像したりして古典の世界を楽しむこと。



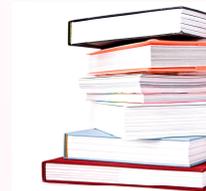
Q4 音読はどのようにすればよいのですか？

小学校では・・・

音読を楽しめるようにすることが肝要です。幼児向けのテレビ番組「にほんごであそぼ」は日本語の豊かな表現に慣れ親しみ、楽しく遊びながら日本語感覚を身につけてもらうことをねらいとして制作されています。この番組からは、声に出す「音」としての日本語の魅力が伝わってきます。

このように、「耳で聞いて楽しい」「声に出して楽しい」日本語としての古典の魅力を十分に味わわせたいものです。そこで、次のように音読指導をしてみましょう。

- 1 読み聞かせや範読によって、耳で聞く楽しさを味わわせる。
- 2 正しい発音・発声・声量・速さで音読する楽しさを味わわせる。
- 3 現代語訳を参考にしながら大体の意味をつかませ、内容に合った間の取り方・強弱・速さ・抑揚を工夫して音読させる。
- 4 言葉と身体表現を組み合わせて音読させる。
- 5 暗唱できるまでくり返し音読の練習をさせる。



中学校では・・・

小学校での学習を受け、「読んで楽しい音読」から「自分の読みによる音読」を目指したいものです。小学校で学習した「すらすら読める楽しさ」から一歩進め、「自分の解釈を表現する楽しさ」まで高めさせるために、次のように音読指導をしてみましょう。ここで気をつけたいのは、中学校の音読は小学校の音読の延長線上にあるということです。音読の比重を極端に少なくして意味の把握や古典文法ばかりを取り上げたのでは、古典嫌いの生徒を作ってしまうことになります。

- 1 「ハヒフヘホ」「ム」の発音のきまりなど、古文の読みの基本的なルールを教える。
- 2 現代語訳と対応させながら、言葉の切り方に気をつけて音読させる。
- 3 正しくすらすら読めるように、ペアやグループや一斉などの形態で斉読やリレー読みなど、様々な方法で音読させる。
- 4 暗唱できるまでくり返し音読の練習をさせる。
- 5 現代語訳や注釈を参考にしながら大意をつかみ、場の状況や心情など自分の解釈が表れるように朗読させる。

Q5 「昔の人のものの見方や考え方、感じ方」はどうやって扱えばよいのですか？

学習指導要領では、指導内容を次のように位置付けています。

【(小) 第5学年及び第6学年】

(1) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

【(中) 第2学年】

(1) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いを想像すること。

平家物語は小学5年と中学2年の教科書に掲載されていますので、考えさせたいことの違いが分かるように述べてみます。

【(小) 第5学年】

教科書に掲載してあるのは冒頭部分「祇園精舎の鐘の声～ひとへに風の前の塵に同じ」です。同じページに現代語訳が載っています。

- 1 平家を表している言葉はどれ？
- 2 その平家がどうなったのか、分かる言葉と例えている言葉はどれ？
- 3 平家物語には平家のどんな姿が書かれていると思う？
- 4 作者（不明）はどんな思いでこの物語を書いたと思う？



【(中) 第2学年】

教科書に掲載してあるのは冒頭部分（小学校と同じ）と「扇の的」ですが、「扇の的」について、考えさせたいことを述べてみます。

- 1 存亡をかけた戦闘の真っ只中なのに、平家はどうして遊びのようなこと（舟端の扇を射落とすこと）をしようと誘ったの？（都武士としての平家の考え方）
- 2 那須与一はどうしてこれほどたくさんの神々に祈ったの？
- 3 与一はどうしてわざわざ的中率の低い鎗矢を使ったの？
- 4 「あ、射たり。」「情けなし。」は、それぞれどんな思いで言った言葉なの？
- 5 与一の成功にどうして平家は舞を踊り、その武士を源氏はどうして射殺さなければならなかったの？（都武士としての平家と東国武士としての源氏の考え方）

Q6 小・中学校で古典の文法を教えなくてもよいのですか？

小学校では・・・

音読に必要なの基本的なルール（始めのハヒフヘホはそのまま読む、途中のハヒフヘホはフ行で読む、母音auはouと発音するなど）は、音読しながら教える必要があります。あくまで「音読に必要なこと」に限定し、いたずらに文語の難しさを強調しすぎない配慮をしてください。



中学校では・・・

現代語では使われていない言葉や用法を中心に、解釈する上で最低限必要なルールは教えなければなりません。

- 1 小学校と同じように、仮名遣いと発音のルール
- 2 現代では使われない意味の言葉（をかし、いと など）
- 3 係り結び（強調の用法が解釈に生かされる）
- 4 和歌の枕詞・序詞・掛詞

高等学校での古典の学習を見据え、ある程度の古典文法の免疫は作っておく必要がありますが、活用形を丸暗記させたり助詞の詳細な使い分けを覚えさせたりといった「機械的な」暗記学習は生徒を古典から遠ざけることになりかねません。

Q7 漢文の学習で気をつけることは何ですか？

漢文の楽しさの一つは音読にあります。古代中国語である漢文を、自らが声に出して読む楽しさを味わわせることが第一です。また、故事成語など、現代の日常生活でも使っている言葉があくさんあることから、現代とのつながりにも目を向けさせたいところです。

中学2年では漢詩を学習します。漢詩はあくまで「詩」です。描かれた情景や心情を想像する楽しさ、情景や心情を数文字という極端に少ない文字で表現する妙も生徒に感じ取らせたいところです。

漢文はもともと中国語ですので、「主語－述語－目的語」の形になっています。英語と同じです。これを強調のための「倒置法」と間違わないようにする必要があります。また、現代語訳や訓読文を手がかりとせず、白文に訓点を付けたり白文を訓読させたりといった高度な学習ばかりでは、漢文嫌いな生徒を作りかねません。